

2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年7月28日

上場会社名 積水化成品工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4228 URL https://www.sekisuikasei.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柏原 正人
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員 (氏名) 佐々木 勝巳 TEL 03-3347-9618
 四半期報告書提出予定日 2023年8月9日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	30,788	8.3	△588	—	△88	—	△374	—
2023年3月期第1四半期	28,441	△0.5	△658	—	△320	—	△569	—

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 △1,268百万円 (—%) 2023年3月期第1四半期 △420百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	△8.28	—
2023年3月期第1四半期	△12.61	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	143,448	56,786	39.1
2023年3月期	145,175	58,464	39.8

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 56,039百万円 2023年3月期 57,723百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	3.00	—	9.00	12.00
2024年3月期	—	—	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	3.00	—	9.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	64,000	5.1	200	—	100	35.7	△500	—	△11.04
通期	130,000	4.3	2,000	152.2	1,700	141.3	550	21.5	12.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期1Q	46,988,109株	2023年3月期	46,988,109株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	1,714,425株	2023年3月期	1,714,425株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期1Q	45,273,684株	2023年3月期1Q	45,193,843株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間は、世界経済におきまして新型コロナウイルス感染症（以下、本感染症）の各国における影響が縮小し、個人消費を中心に経済活動活性化の動きが見られた一方、ウクライナ情勢の長期化やエネルギー価格の高騰などによるインフレ圧力は継続しており、依然、先行き不透明な状況が続いております。自動車産業においては、半導体不足などの生産が制約される状況は解消されつつあり、徐々に回復の兆しが見えてきましたが、本感染症以前までの回復には至っておりません。エレクトロニクス関連においては、パソコンなどのモニター用途の液晶パネルが前年度からの在庫調整も落ち着きを見せ始め、今後は回復が期待されます。日本経済は、本感染症の行動制限の解除など、社会経済活動の本格的な再開が進んだ一方で、エネルギー価格の高騰や物価上昇の影響による消費の下振れ懸念、為替・金利市場の変動など、不透明感を払拭できない状況が継続しております。また、温室効果ガス排出量削減や気候変動問題など環境課題への対応はさらに重要性を増しております。

日本の発泡プラスチック業界におきましては、食品容器関連の需要は、インバウンド需要回復などプラス要因も出てきていますが、内中食関連の容器については行動制限解除により落ち着きをみせております。各種部材や搬送資材・梱包材は需要の本格的な回復までには至らず、また、エネルギー価格の高騰なども継続しております。

このような厳しい経営環境のなか、当社グループは、前年度からスタートさせた3カ年中期経営計画「Spiral-up 2024」の3つの重点課題に対してグループ全体で取り組んでおります。『収益体質の強化』においては、経営資源の選択と集中による事業ポートフォリオの再構築と抜本的な生産革新や開発品の早期収益化に取り組んでおります。『環境・社会課題解決型事業への転換』においては、「循環型ビジネスによる環境貢献製品の拡大」と「カーボンニュートラル実現への挑戦」を掲げ、SKG-5R(※)活動推進の一層の強化に取り組んでおり、その一環として「ReNew+」(※)、「BIOCellular」(※)をはじめとする環境負荷を低減する新たな素材開発を行い、これらの効率的な生産と販売拡大に注力しております。さらに、TCFD提言に基づき、気候関連のリスクおよび機会に関する「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」について情報開示を行いました。今後も、生産の省エネルギー化や効率化、再生エネルギー活用などによるCO2排出量削減や、脱炭素化に貢献する環境貢献製品の創出と拡大など、カーボンニュートラル実現に向けた取り組みを加速させていただきます。『経営基盤の強化』では、マテリアリティ(経営重要課題)を特定し、それぞれにKPI(重要成果目標)を定め、持続的な成長に向けて「ESG経営」を強化しております。

売上面において、ヒューマンライフ分野では、人流回復に伴う回復需要の取り込みに努め、インダストリー分野では、戻りつつある各領域での拡販を図って参りました。利益面においては、エネルギー価格高騰に対して原価低減や固定費の削減、そして販売価格への転嫁などに取り組み、採算改善を行いました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は307億8千8百万円（前年同期比8.3%の増加）、営業損失は5億8千8百万円（前年同四半期は6億5千8百万円の損失）、経常損失は8千8百万円（前年同四半期は3億2千万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は3億7千4百万円（前年同四半期は5億6千9百万円の損失）となりました。

※「SKG-5R」は、SKGは積水化成成品グループ、「5R」は、Reduce、Reuse、Recycle、Replace、Re-createを指します。

※「ReNew+」は、リサイクル原料を活用した製品カテゴリーブランドです。

※「BIOCellular」は、生分解性またはバイオマス由来プラスチックを活用した製品カテゴリーブランドです。

以下、各セグメントの業績は次のとおりであります。

<ヒューマンライフ分野>

ヒューマンライフ分野の売上高は118億1千9百万円（前年同期比1.4%の減少）、セグメント利益は2億5千1百万円（前年同四半期は6千7百万円の損失）となりました。

食領域においては、食品容器用途は外出機会の増加により観光関連の弁当容器やテイクアウト容器などの需要は堅調に推移したものの、内中食関連向けの需要は低調に推移しました。農産用途は生育不良や天候などの影響もあり出荷が伸びず、水産用途も漁獲量の減少傾向が継続し低調に推移しました。売上高は価格改定を推し進めましたが、前年を下回る結果となりました。

住環境・エネルギー領域においては、屋上緑化関係での物件獲得は進みましたが、建材用途・土木用途は工事物件の進捗遅れなどがあり低調に推移しました。

主力製品である「エスレンシート」（発泡ポリスチレンシート）の売上数量は、テイクアウト容器用途の需要は堅調ながら、スーパーなどの生鮮食品容器用途などは落ち着きを見せ、即席麺用途も減少となり、全体では前年を下回りました。「エスレンビーズ」（発泡性ポリスチレンビーズ）の売上数量は、クッション用ビーズなどのライ

フグズ用途の出荷が減少し、また水産分野・農産分野が低調となったことで、全体では前年より減少しました。利益面では、原価低減や固定費削減、販売価格への転嫁、また製品移管運賃の低減を図り、増益となりました。

<インダストリー分野>

インダストリー分野の売上高は189億6千8百万円（前年同期比15.3%の増加）、セグメント損失は1億5千5百万円（前年同四半期は3億4千1百万円の損失）となりました。

モビリティ領域における、「ピオセラン」（ポリスチレン・ポリオレフィン複合樹脂発泡体）の販売は、自動車部材用途では、一部自動車メーカーで部品不足の影響が残ったものの、自動車生産台数の回復を背景に好調に推移しました。部品梱包材用途では、前年度売上が大きく伸長した電動部品梱包用途での需要が一巡したこともありましたが、全体としては順調に推移しています。また、トラック、バス向けのFRP（繊維強化プラスチック）部材ならびに関連資材などで新たな需要を取り込み、好調に推移しました。欧州のProseatグループでは、欧州自動車市場の回復の兆しの中、生産量は増加、あわせて生産性改善や固定費削減に努めるもインフレや人件費の高騰があり、赤字が継続しております。

エレクトロニクス領域においては、「テクポリマー」（有機微粒子ポリマー）の液晶パネル等の光拡散用途が、前年同期からは下回りましたが、液晶パネルメーカーの在庫調整の解消が進んだことで、回復傾向となりました。パネル搬送資材・梱包材用途での「ピオセラン」は、台湾での需要は回復、堅調に推移しましたが、中国での需要回復はやや遅れたこともあり前年を下回りました。

医療・健康領域においては、「エラストイル」（熱可塑性エラストマー発泡体）は、トレーニングシューズ用のミッドソール関連が現行モデルの切替え時期により低調な出荷となり、「テクノゲル（ST-ge1）」（機能性高分子ゲル）も中国向けの売上が減少致しました。

利益面では、モビリティ領域での回復や生産性改善、固定費削減等に努めましたが、黒字回復までには至りませんでした。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、17億2千7百万円減少し、1,434億4千8百万円となりました。資産の部では、現金及び預金の減少などにより流動資産が13億7千8百万円減少しました。

負債の部では、4千9百万円減少し、866億6千2百万円となりました。純資産の部では純損失による利益剰余金の減少と、その他有価証券評価差額金などの減少により16億7千8百万円減少し、567億8千6百万円となりました。この結果、自己資本比率は39.1%となりました。

当第1四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況については、営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失となったものの、損害保険金の受取などにより7千7百万円の収入（前年同四半期は3億6千2百万円の支出）となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の売却による収入の減少などにより、前年同期に比べ1億1千2百万円資金は減少し、7億2千1百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金による収入の減少などにより前年同期に比べ24億6千7百万円資金は減少し、15億7千5百万円の支出となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第1四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末に比べて、19億7千6百万円減少し、90億9千6百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の業績予想につきましては、2023年4月28日公表数値からの変更はありません。

今後、業績予想の見直しが必要となった場合には、速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,080	9,103
受取手形、売掛金及び契約資産	28,388	28,474
電子記録債権	7,930	7,670
商品及び製品	9,253	9,428
仕掛品	1,909	2,245
原材料及び貯蔵品	5,127	5,167
その他	3,227	3,442
貸倒引当金	△42	△37
流動資産合計	66,874	65,496
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	14,804	14,748
機械装置及び運搬具(純額)	12,753	12,652
土地	21,492	21,601
その他(純額)	4,653	5,064
有形固定資産合計	53,702	54,067
無形固定資産		
その他	1,763	1,761
無形固定資産合計	1,763	1,761
投資その他の資産		
投資有価証券	14,041	13,491
退職給付に係る資産	6,936	6,970
その他	1,905	1,708
貸倒引当金	△47	△47
投資その他の資産合計	22,834	22,123
固定資産合計	78,301	77,952
資産合計	145,175	143,448

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,026	17,223
電子記録債務	8,263	7,717
短期借入金	13,026	14,501
未払法人税等	1,338	329
賞与引当金	1,010	568
役員賞与引当金	42	16
その他	7,388	8,932
流動負債合計	48,096	49,289
固定負債		
社債	7,000	7,000
長期借入金	18,094	16,818
退職給付に係る負債	3,728	3,795
製品補償引当金	82	78
その他	9,710	9,680
固定負債合計	38,614	37,372
負債合計	86,711	86,662
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,533	16,533
資本剰余金	16,445	16,445
利益剰余金	16,602	15,820
自己株式	△1,382	△1,382
株主資本合計	48,199	47,417
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,440	7,059
土地再評価差額金	1,479	1,479
為替換算調整勘定	562	46
退職給付に係る調整累計額	41	38
その他の包括利益累計額合計	9,524	8,622
非支配株主持分	740	746
純資産合計	58,464	56,786
負債純資産合計	145,175	143,448

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	28,441	30,788
売上原価	23,267	25,098
売上総利益	5,174	5,689
販売費及び一般管理費	5,832	6,278
営業損失(△)	△658	△588
営業外収益		
受取利息	4	15
受取配当金	192	161
為替差益	288	247
助成金収入	12	170
その他	26	108
営業外収益合計	523	702
営業外費用		
支払利息	104	142
固定資産除売却損	6	6
その他	75	53
営業外費用合計	185	202
経常損失(△)	△320	△88
税金等調整前四半期純損失(△)	△320	△88
法人税等	246	278
四半期純損失(△)	△566	△367
非支配株主に帰属する四半期純利益	3	7
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△569	△374

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純損失(△)	△566	△367
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△195	△381
為替換算調整勘定	360	△516
退職給付に係る調整額	△18	△3
その他の包括利益合計	145	△901
四半期包括利益	△420	△1,268
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△423	△1,276
非支配株主に係る四半期包括利益	3	7

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△320	△88
減価償却費	1,389	1,397
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△24	△6
受取利息及び受取配当金	△196	△176
支払利息	104	142
賞与引当金の増減額(△は減少)	△476	△443
製品補償引当金の増減額(△は減少)	△11	△3
退職給付に係る資産負債の増減額	△50	22
固定資産除売却損益(△は益)	4	6
助成金収入	△12	△170
売上債権の増減額(△は増加)	1,161	508
棚卸資産の増減額(△は増加)	△939	△389
仕入債務の増減額(△は減少)	△379	△567
その他	△101	271
小計	148	503
利息及び配当金の受取額	196	176
利息の支払額	△107	△195
損害保険金の受取額	—	610
助成金の受取額	12	170
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△612	△1,188
営業活動によるキャッシュ・フロー	△362	77
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△640	△639
有形固定資産の売却による収入	23	0
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
貸付けによる支出	△0	△4
貸付金の回収による収入	0	4
その他	7	△82
投資活動によるキャッシュ・フロー	△609	△721
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	814	1,186
長期借入れによる収入	4,140	1,500
長期借入金の返済による支出	△3,512	△3,639
配当金の支払額	△316	△388
非支配株主への配当金の支払額	△1	△1
その他	△232	△232
財務活動によるキャッシュ・フロー	892	△1,575
現金及び現金同等物に係る換算差額	149	243
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	69	△1,976
現金及び現金同等物の期首残高	10,503	11,072
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,572	9,096

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ヒューマンライフ 分野	インダストリー 分野	計		
売上高					
日本	11,952	5,086	17,039	—	17,039
欧州	—	7,322	7,322	—	7,322
アジア	32	3,256	3,289	—	3,289
その他	—	790	790	—	790
顧客との契約から生じる収益	11,985	16,456	28,441	—	28,441
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	11,985	16,456	28,441	—	28,441
セグメント間の内部売上高 又は振替高	160	39	199	△199	—
計	12,145	16,495	28,640	△199	28,441
セグメント損失(△)	△67	△341	△409	88	△320

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント損失の調整額88百万円には、セグメント間取引消去△0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用89百万円が含まれております。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の経常損失と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・ヒューマンライフ分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム
これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・インダストリー分野—— ピオセラン、ライトロン、ネオマイクロレン、セルペット、テクポリマー、テクノゲル、
テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、
ST-Elevat、これら成形加工品など

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ヒューマンライフ 分野	インダストリー 分野	計		
売上高					
日本	11,815	5,931	17,746	—	17,746
欧州	—	9,293	9,293	—	9,293
アジア	4	2,696	2,701	—	2,701
その他	—	1,046	1,046	—	1,046
顧客との契約から生じる収益	11,819	18,968	30,788	—	30,788
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	11,819	18,968	30,788	—	30,788
セグメント間の内部売上高 又は振替高	142	26	169	△169	—
計	11,962	18,995	30,957	△169	30,788
セグメント利益又は損失(△)	251	△155	96	△184	△88

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額△184百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△185百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常損失と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・ヒューマンライフ 分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、セルペット
これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・インダストリー 分野—— ピオセララン、ライトロン、ネオマイクロレン、テクポリマー、テクノゲル、
テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、
ST-Elevat、これら成形加工品など